

詩の言葉に潜在している劇的な力を引き出し、
音響や映像、ダンスと組み合わせて、
21世紀型の新たなパフォーマンスの姿を探る。

マラルメ・プロジェクトⅡ

『イジチュール』 の夜

企画：浅田彰、渡邊守章

構成・演出：渡邊守章

〈企画・主催〉

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

〈共催〉

京都造形芸術大学大学院

京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター

京都芸術劇場 春秋座

(京都造形芸術大学内)

2011年8月14日[日]

16:00開演(15:30開場)

昨年、『マラルメ全集』(全5冊、筑摩書房)の完結を記念して、19世紀フランスの詩人ステファヌ・マラルメのテキスト『半獣神の午後』と「エロディアドー——舞台」をとりあげ、難解をもってなるマラルメの詩の身体的音楽性を、音楽と映像と朗読(フランス語と日本語)によって、春秋座舞台において検証する試みを行った。

この企画は、いわゆるワーク・イン・プログレスであり、今年度は『イジチュール』*に挑戦するが、この作品はまさに「キマイラ」つまり「頭が獅子で、胴が山羊、尾が龍で口から炎を吐く」という「存在し得ないもの」の喩に引かれる「幻想獣」のイメージにふさわしい。

『イジチュール(Igitur)』は、ラテン語で「かくて、従って」などを意味する副詞的接続詞だが、この哲学的小話では、みずから「絶対」として自殺を企てる若者の名前であり、虚構設定の上では、マラルメの分身である。1860年代の後半、すでに悪化していたその神経障害は、文字を書いたり、語ったりすることが不可能な状態にまで立ち至っていた。それを乗り切るために、自らの存在論的な危機を主題に「虚構の物語」を書くことを思い立ち、そうすることで、言わば類似療法(オメオパティー)の戦略で、「毒ヲモツテ毒ヲ制ス(similia similibus)」べく、この哲学的小話を書いたのである。

定型詩(劇詩も含む)、散文詩以外の、「小話(コント)」という言葉態(書き方)と、主題そのものの困難さが、詩人にこの「哲学的小話」を完成させなかったが、その没後、娘婿のエドモン・ボニオ博士が、遺稿の束の中から発掘し、1925年にガリマール社から刊行する。未完の、しかも未定稿を解読したものであるにもかかわらず、その断章の中から、「文学そのものの存在論」の最も先鋭な思考が煌いていて、爾来、モーリス・ブランショからジャック・デリダに至る20世紀文学の思考の最先端部が、そこに「書くこと」の根拠に関わる最も過激で深遠な思考を読み取ってきたから、文学創造を論じようとする者にとって『イジチュール』は、避けては通れないテキストとなったのだった。

今年度は昨年の経験を受けて、渡邊守章と浅田彰による朗読、坂本龍一による音楽・音響、高谷史郎による映像・美術に加え、白井剛・寺田みさこのダンスも加わり、一層創り込んだ舞台を立ち上げる予定である。

〔京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長・教授・演出家 渡邊守章〕

* 渡邊守章による『イジチュール』の本文全訳は『全集1』本冊pp.189-241に、
解題・注釈は別冊pp.397-496に読まれる。

渡邊守章

浅田彰

坂本龍一

高谷史郎

白井剛

寺田みさこ

マラルメ・プロジェクトⅡ

Stéphane Mallarmé

『イジチュール』の夜

□ チケット発売日

2011年6月14日(火) 劇場友の会先行発売

2011年6月15日(水) 一般発売

□ 料金〈全席指定〉

一般 — 3,500円

シニア(60歳以上) — 3,200円

学生&ユース(25歳以下) — 2,500円

瓜生山学園生 — 1,000円

京都芸術劇場友の会 — 3,000円

※学生、ユース、シニアは要身分証明書提示

※瓜生山学園生は劇場チケットセンターのみの取扱い

□ チケット取扱い

● 京都芸術劇場チケットセンター

Tel 075-791-8240(平日10時~17時)

● 劇場オンラインチケットストア

パソコンから

<http://www.k-pac.org/>

携帯電話から

<http://www.k-pac.org/theatre/m/m>

※要事前登録(無料)

□ お問い合わせ先

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

Tel 075-791-9207 Fax 075-791-9438

京都芸術劇場 春秋座 [京都造形芸術大学内]

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

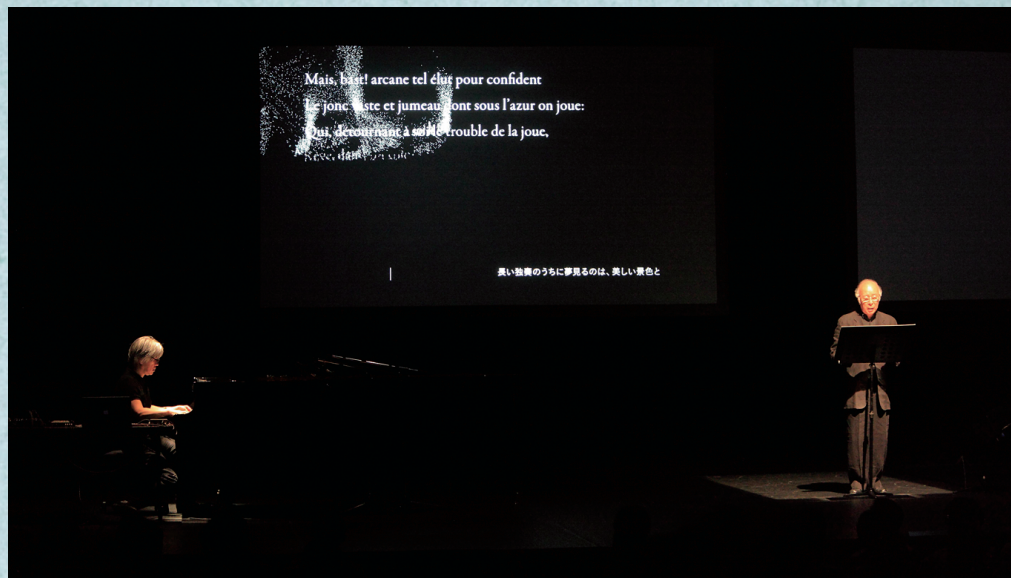


● JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

● 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

● 京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。



2010/7/24 『マラルメ・プロジェクト』京都芸術劇場 春秋座 撮影：清水俊洋

朗読に基づく実験的パフォーマンス

ステファヌ・マラルメ『イジチュール』の夜

朗読——渡邊守章、浅田彰

音楽・音響——坂本龍一

映像・美術——高谷史郎

ダンス——白井剛、寺田みさこ

渡邊守章

[京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長・教授]

表象文化論、フランス文学専攻。演出家。演劇企画「空中庭園」主宰。

2010年5月、『詩・イジチュール』により『マラルメ全集』全五巻(共編・訳／筑摩書房)を完結。

浅田 彰

[京都造形芸術大学大学院長・比較芸術学研究センター所長]

『構造と力』以来、哲学・思想史のみならず、美術、建築、音楽、舞踊、映画、文学ほか多種多様な分野において批評活動を展開している。

坂本龍一

[音楽家]

作曲家としてアカデミー賞を受賞するなど、世界的な評価を得ながら、常に革新的なサウンドを追求している。その活動の範囲は音楽にとどまらず、環境・平和・社会問題にも積極的に関わっている。

高谷史郎

[マルチメディアアーティスト]

「ダムタイプ」の創設メンバーとして、パフォーマンスやインスタレーションの制作に携わり、映像、照明、グラフィックや舞台装置のデザインなどを手がける。1999年坂本龍一オペラ『LIFE』の映像を担当するなど、個人としての活動も活発である。

白井剛

[振付家・ダンサー・映像作家]

1996~2000年ダンスカンパニー「伊藤キム・輝く未来」の作品に出演。1998年「Study of Live works 発条ト(ばねと)」の設立に参加。2000年バニョレ国際振付賞受賞。ソロ活動のほか、振付作品も国内外で高い評価を得ている。

寺田みさこ

[ダンサー・振付家・京都造形芸術大学舞台芸術学科准教授]

1987年より石井アカデミー・ド・バレエに所属。1991年より 砂連尾理とユニットを結成。「トヨタ コレオグラフィーアワード2002」にて、「次代を担う振付家賞(グランプリ)」受賞。2006年以降ソロ活動も開始し、活動の場を広げている。

